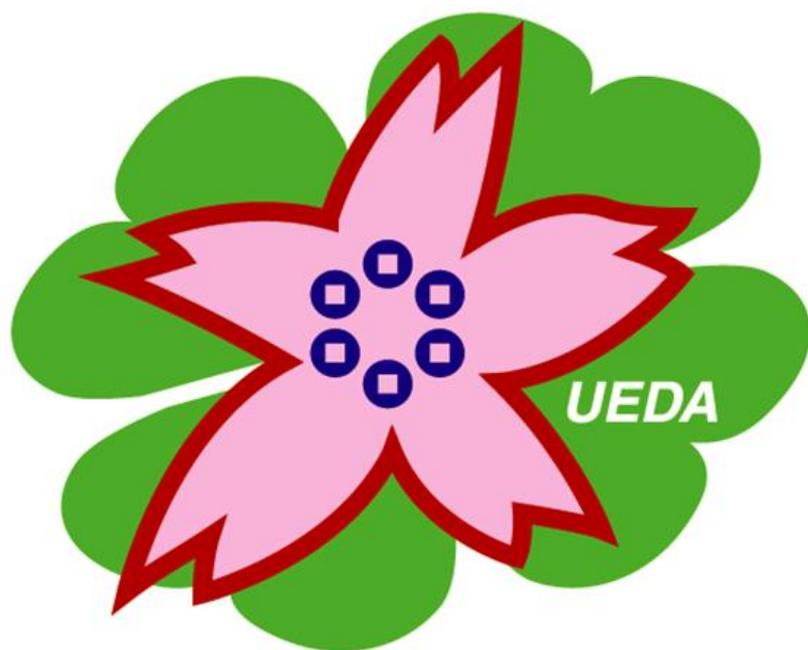


第三次上田市図書館基本構想(案)



上田市・上田市教育委員会

第1章 策定にあたって

第1節 上田市の図書館のあゆみ	1
第2節 基本構想の趣旨	1
第3節 基本構想の位置付け	2
第4節 基本構想の期間	3
第5節 基本構想の策定体制	3

第2章 上田市の図書館の現状と課題

第1節 第二次基本構想の振り返り	4
第2節 「生涯学習に関する市民意識調査」 調査結果報告書の図書館部分について	7
第3節 上田市の図書館の現状分析 —『日本の図書館 統計と名簿』より—	15
第4節 上田市の図書館の課題 —第三次基本構想に向けて—	19

第3章 基本理念と3つの基本方針

第1節 基本理念	20
第2節 3つの基本方針と具体的な考え方	20

第4章 基本施策と取組

第1節 基本方針1 利用しやすい図書館	23
第2節 基本方針2 役に立つ図書館	27
第3節 基本方針3 つながりが見つかる図書館	30

第5章 今後の上田市の図書館の施設整備と運営

第1節 上田市の公共施設マネジメントについて	33
第2節 新しい上田図書館の施設整備の方向性	34
第3節 上田市の図書館運営について	34

第1章 策定にあたって

第1節 上田市の図書館のあゆみ

今から120年前の明治時代の後半、上田地域の青年会は村づくりのための学習・文化の拠点として図書館の経営に力を注いでおり、大正末期には各村に20余の図書館が作られていました。また同じ頃、図書館の必要性は「世人すでに認めて定論あり」（上田郷友会月報）と言われており、市民の間では市立図書館の設置を望む声が大きくなっていました。このような機運のもと、上田市は図書室が備えられていた明治記念館を買い取り、大正12年に上田市立図書館が開館しました。

昭和40年代になると、これまでの図書館が古く狭くなっていたことから、当時活発に読書運動を進めていたPTA母親文庫、教育・文化団体等が、新しい図書館の建設を市に要望しました。ここでは新しい図書館を青少年の教養の場、読書サークル等の集会の場、上田市の行政・産業・文化等を学ぶ場、家族が子ども連れで読書ができる場にしてほしいといった希望が添えられていました。同じ時期、旧丸子町でも町立図書館の整備が進められており、地元企業の篤志家からは、図書館の建設費用に充ててほしいと多額の寄付がありました。

このように、上田市には、市民が図書館を地域づくりや生涯学習の拠点として捉えて整備の要望や寄付等を行い、その動きを受けて行政による図書館整備が進められてきたという歴史があります。

その後、平成11年に創造館分室が上田創造館内に開設しました。平成16年に上田情報ライブラリーが上田駅前ビルパレオ4階に開館、平成22年11月に真田図書館が開館し、平成24年2月には丸子図書館が移転新築されました。いずれの図書館も、市民団体等と協働で図書館づくりを進めています。（資料1）

また、平成7年には近隣の1市3町で上田地域図書館情報ネットワーク（以下、エコール）を開始し、現在では、2市2町1村が参加して運営しています。エコールでは、1枚の利用者カードで参加自治体の全ての図書館を利用できます。さらに、小中学校図書館もネットワークでつないでおり、児童・生徒の学習のためにエコールの公立図書館等の本を利用できる体制が整備されています。（資料2）

第2節 基本構想の趣旨

平成18年3月の市町村合併後、「上田市図書館基本構想」、「第二次上田市図書館基本構想」を策定し、新市における図書館事業を推進してきました。

武石公民館図書室のエコール接続、真田図書館と丸子図書館の建設、移動図書館車の更新等、多くの市民が図書館サービスを受けることができるよう、取り組みを進めてきました。

この間、人口減少や少子高齢化、地域コミュニティの希薄化、急速なデジタル技術の普及が進み、人々の価値観やライフスタイルは多様化が進んでいます。

また、上田図書館の老朽化や上田市の図書館全体の個人貸出冊数が伸びていないなど、様々な課題が顕在化してきています。

一方、これからの図書館は、全ての人のために読書環境を整えるとともに、より確かな情報を

届ける役割等、持続可能な地域コミュニティを形成していくための基盤の役割が期待されています。

こうした状況のもと、「第二次上田市図書館基本構想」が令和7年度をもって終了することから、これまでの取組や成果を引き継ぎつつ、社会情勢の変化や新たな課題へ対応するため、今後の図書館政策の指針として「第三次上田市図書館基本構想」を策定しました。(本文中では「図書館基本構想」は「基本構想」と略します。)

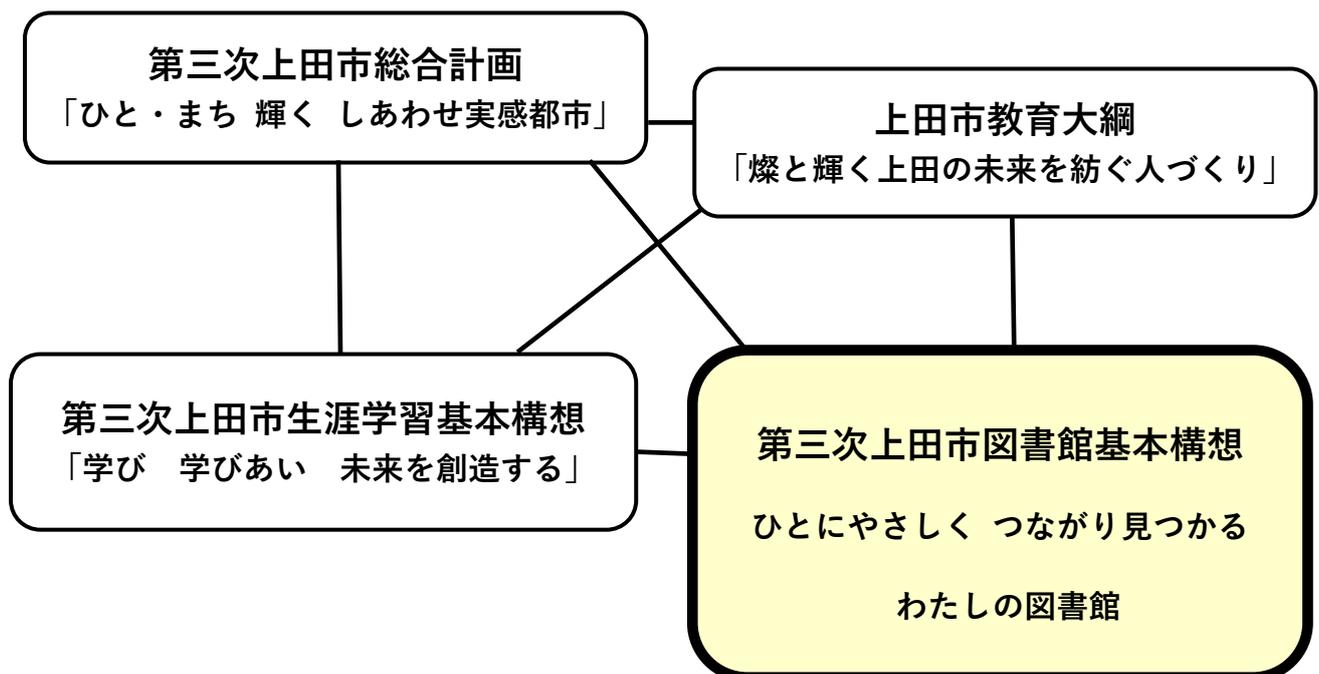
第3節 基本構想の位置付け

基本構想は「第三次上田市総合計画」及び「上田市教育大綱」を上位計画としており、これらの主旨を踏まえた個別計画として策定を進めました。

「第三次上田市総合計画」は目指す将来都市像を「ひと・まち 輝く しあわせ実感都市」と定め、令和8年度から17年度を計画期間としています。「上田市教育大綱」は教育施策全体の人づくりのビジョンとして「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」を掲げており、令和8年度から12年度を計画期間としています。

また、図書館政策は生涯学習政策の一環であることから、基本構想は、生涯学習政策全般の計画である「第三次上田市生涯学習基本構想」の関連計画に位置付けられています。同構想は、この地域の生涯学習の先駆的活動である上田自由大学の精神を大切にしながら、基本理念を「学び 学びあい 未来を創造する」と定め、令和8年度から17年度を計画期間としており、基本構想は同構想が目指す理念も踏まえて策定を進めました。

第三次上田市図書館基本構想と諸計画の関係図



— 関係法令等 —

- ・教育基本法（教育振興基本計画）
- ・社会教育法
- ・図書館法
- ・図書館の設置及び望ましい基準
- ・子どもの読書活動の推進に関する法律（子ども読書活動推進計画）
- ・文字・活字文化振興法
- ・読書バリアフリー法

第4節 構想の期間

基本構想の期間は、令和8年度から17年度までの10年間とします。

総合計画の前期まちづくり計画が令和12年度までの5年間であることから、基本構想も5年間を目途に中間評価を行い、必要に応じて見直しを行います。

第5節 構想の策定体制

本基本構想は、図書館の運営方針であると同時に社会教育計画の性質を併せ持つことから、図書館協議会において作成した素案を基に、社会教育委員会議で意見交換及び審議を行いました。また、市民からの意見を聴取、反映させるためにパブリックコメントを実施しました。

第2章 上田市の図書館の現状と課題

第2章では、上田市の図書館の現状と課題について述べます。

はじめに第二次基本構想を振り返ります。

次に、第三次上田市生涯学習基本構想の策定にあたり実施した「生涯学習に関する市民意識調査」の図書館に関する調査結果から、図書館の利用実態や図書館への期待を説明します。

最後に、日本図書館協会が発行している『日本の図書館 統計と名簿』を活用し、上田市の図書館の課題を明らかにしていきます。

第1節 第二次基本構想の振り返り

1 第二次基本構想の体系

第二次基本構想は、基本理念を「地域の身近な情報拠点として、くらしと学びに役立つ図書館」とし、5つの基本目標と27の取組項目を定めて図書館サービスの向上を進めました。

基本目標と取組項目の体系を示します。

基本理念 地域の身近な情報拠点として、くらしと学びに役立つ図書館

基本目標1 生涯学習の支援施設である図書館

- 取組項目
- 1 課題解決のための情報提供
 - 2 利用者ニーズの把握と活用
 - 3 企画展示や講演会、講座等の開催
 - 4 高齢者・障がい者サービスの充実
 - 5 国際化に対応したサービスの提供
 - 6 子ども読書活動推進計画の更なる推進
 - 7 公共図書館と学校図書館との連携
 - 8 図書館職員の資質向上

基本目標2 図書館の施設整備と機能強化

- 取組項目
- 9 上田図書館の施設整備
 - 10 上田図書館以外の施設整備
 - 11 中央図書館機能の検討
 - 12 地域図書館の役割の検討
 - 13 各図書館のあり方の検討

基本目標3 地域資料及び貴重資料の収集、整理、保存及び情報提供ができる図書館

- 取組項目
- 14 視聴覚資料サービスの充実
 - 15 地域・行政資料の積極的な収集、保存及び活用

1 6 貴重資料の収集、整理、保存及び活用

1 7 デジタルアーカイブの推進

基本目標4 協働による地域とともにある図書館

取組項目 1 8 市民協働の推進

1 9 高校、短大、大学、専門学校等との協働

基本目標5 積極的なサービスを提供する図書館

取組項目 2 0 図書館利用者の拡大

2 1 図書資料の収集、保存及び除籍

2 2 関係機関等との連携と情報提供

2 3 積極的な情報発信

2 4 レファレンスの充実と利用促進

2 5 データベースの利用促進

2 6 全図書館のICタグ化

2 7 電子サービスの調査及び研究

2 基本目標の取組状況と課題

第二次基本構想は、生涯学習支援、施設整備と機能強化、地域資料の収集・保存、協働による地域連携、そして積極的なサービス提供という、5つの基本目標を掲げました。

以下では、各基本目標に沿って実施した主な取組の状況と課題を述べていきます。取組状況の一覧は資料9「第二次図書館基本構想の取組状況のまとめ」に掲載しています。

①基本目標1 生涯学習の支援施設である図書館

<主な取組状況>

- ・各館で課題解決のための情報提供を行っており、特に上田情報ライブラリーではビジネスや暮らしに関する講座を開催しました。
- ・各図書館の特性を活かした多種多様な催しを行い、また全体事業として100周年記念事業などを行いました。
- ・「第二次上田市子ども読書活動推進計画」（資料10）を策定し、子どもの読書に取り組む団体や学校、施設との連携強化を図りました。
- ・図書館職員の資質向上のため、各種研修会に参加し、専門性の維持・向上に努めました。

<主な課題>

- ・利用者全体のニーズを包括的に把握するための定期的なアンケート調査は実施できておらず、今後の図書館運営に反映させるためのデータが不足しています。
- ・建設年度が古い上田図書館にはエレベーターが無く、駐車場から館へのアクセスにも課題があるなど施設面のバリアフリー化が大きく遅れています。
- ・外国語資料のニーズ把握、案内パンフレットの多言語化等は実施できていません。

②基本目標2 図書館の施設整備と機能強化

<主な取組状況>

- ・全館共通の選書方針（資料11）と除籍基準（資料12）を定めるとともに、各館の特色や収集方針を整理しました。
- ・各図書館が、それぞれの特徴を生かして図書館サービスを進めました。

<主な課題>

- ・上田図書館は、建設から55年が経過しており、新図書館の建築が急務です。

③基本目標3 地域資料及び貴重資料の収集・整理・保存・情報提供

<主な取組状況>

- ・郷土資料や行政資料の収集、整理を適宜行いました。
- ・寄贈された貴重資料の受入、整理を行いました。

<主な課題>

- ・地域の文化や歴史の音源や映像等の視聴覚資料を収集した場合の上映や貸出は、著作権処理の課題があり、図書館としてどのように取り扱うか、検討が必要です。

④基本目標4 協働による地域とともにある図書館

<主な取組状況>

- ・各館でボランティア団体等と協働で、読み聞かせ、本の修理、古文書読解、情報機器等の活用サポート、文化イベント等の事業を進めることができました。
- ・高校や大学の職場体験等の受け入れに取り組みました。

<主な課題>

- ・ボランティア団体は、メンバーの高齢化、会員数の減少等の課題があります。

⑤基本目標5 積極的なサービスを提供する図書館

<主な取組状況>

- ・「デジとしょ信州」（長野県と市町村による協働電子図書館）への参加、サービスポイントの拡大、移動図書館車の新車両更新等に取り組みました。

<主な課題>

- ・データベースの利活用、図書資料のICタグ取り付けが進んでいません。

3 まとめ

第二次基本構想では、市民協働の事業推進、子ども読書活動推進計画の策定、職員研修の充実、貴重資料のデジタルアーカイブ化をはじめ、基本目標に応じて取組を進めました。

一方、上田図書館の老朽化や施設のバリアフリー化、資料のICタグ取り付け、利用者ニーズの把握、ボランティア団体の育成等は、取組は進んでおらず大きな課題です。

第三次基本構想に向けて、進捗のあった取組を含めて、社会の変化にあわせて図書館サービスのあり方を見直していく必要があります。

第2節 「生涯学習に関する市民意識調査」調査結果報告書の図書館部分について

1 調査の概要

「第三次上田市生涯学習基本構想」の策定にあたり、市民の生涯学習に関する考え方や活動状況を把握することを目的に、アンケート調査「生涯学習に関する市民意識調査」が実施されました。

上田市在住の18歳以上の方2,000人を無作為に抽出し、令和7年1月10日から1月31日までの期間に調査が行われました。有効回答数は788件で、有効回答率は39.4%でした。

回答者の属性は、中央地域の割合が最も高く（18.8%）、年齢別では60～69歳（21.7%）が最多、性別では女性（53.7%）が男性（43.5%）を上回っています。

2 図書館に関する調査結果

図書館に関しては、次の4つの質問項目により調査が行われました。

「問23 あなたは、この1年くらいの間図書館を利用したことがありますか。利用したことがある場合は、利用した施設・サービスに○をしてください。」

「問24 利用した図書館に対するあなたの満足度はどのくらいですか。また、そのように考える主な理由はどのようなことですか。」

「問25 あなたが図書館を利用したことがない主な理由はどんなことですか。（主なもの2つまで○）」

「問26 あなたは、図書館にどのようなことを期待しますか。役割について（重要と考えるもの2つまで○）。機能等について（重要と考えるもの2つまで○）」

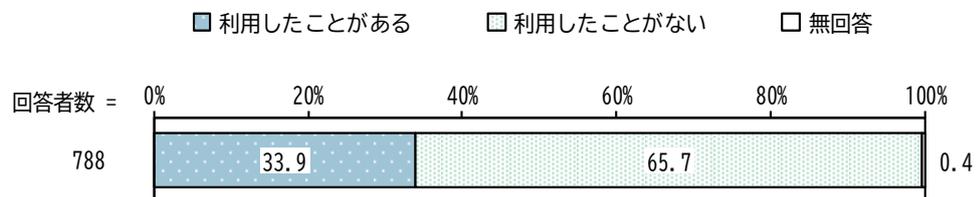
以下では、図書館に関する調査結果を紹介し、調査から分かった図書館の利用実態や図書館に期待することについて説明を行います。

図書館の調査結果のデータは資料13に掲載しています。

①図書館の利用状況（問23）

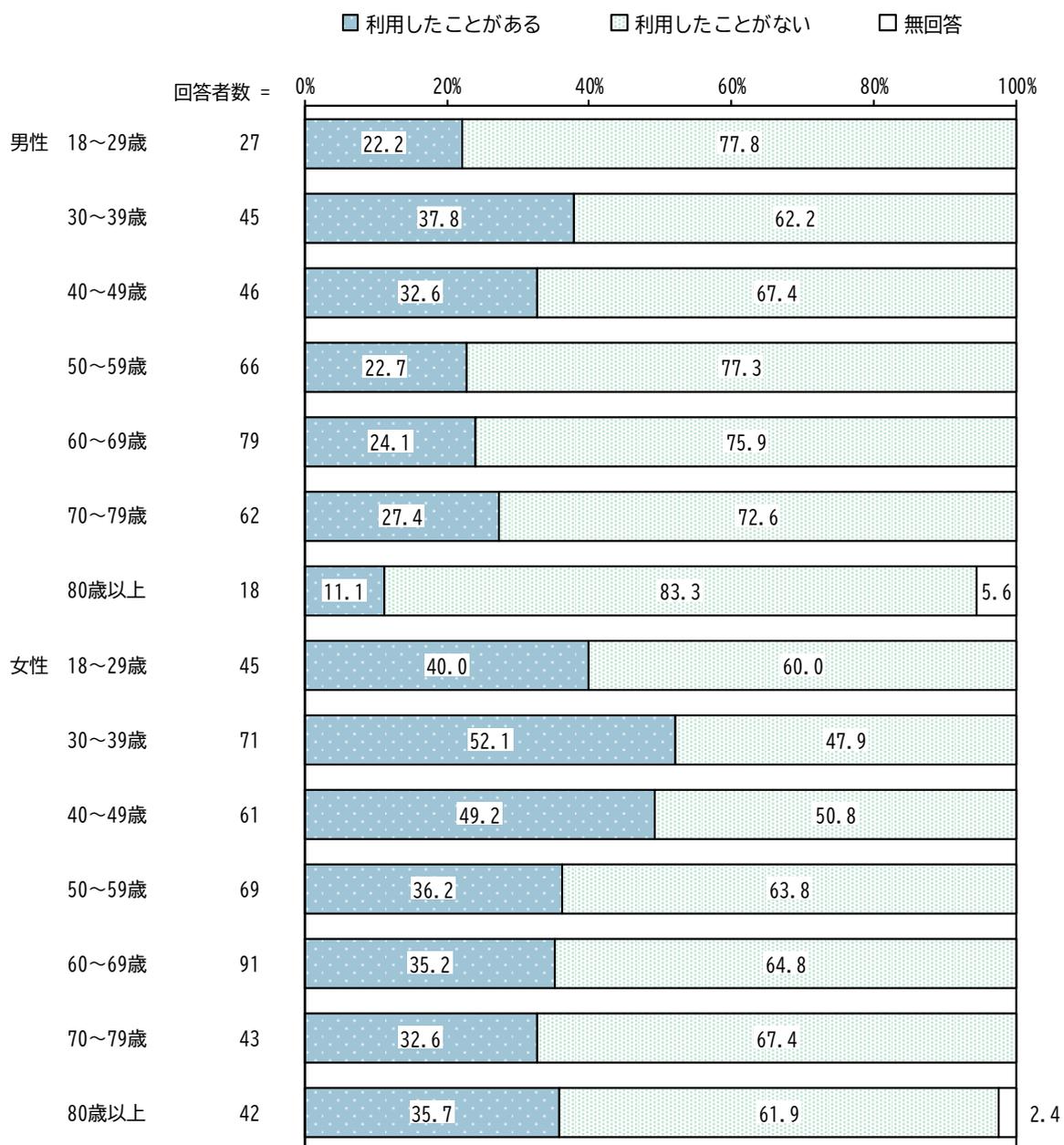
- ・過去1年間に図書館を「利用したことがある」と回答した人の割合は33.9%でした。

【利用状況 全体】



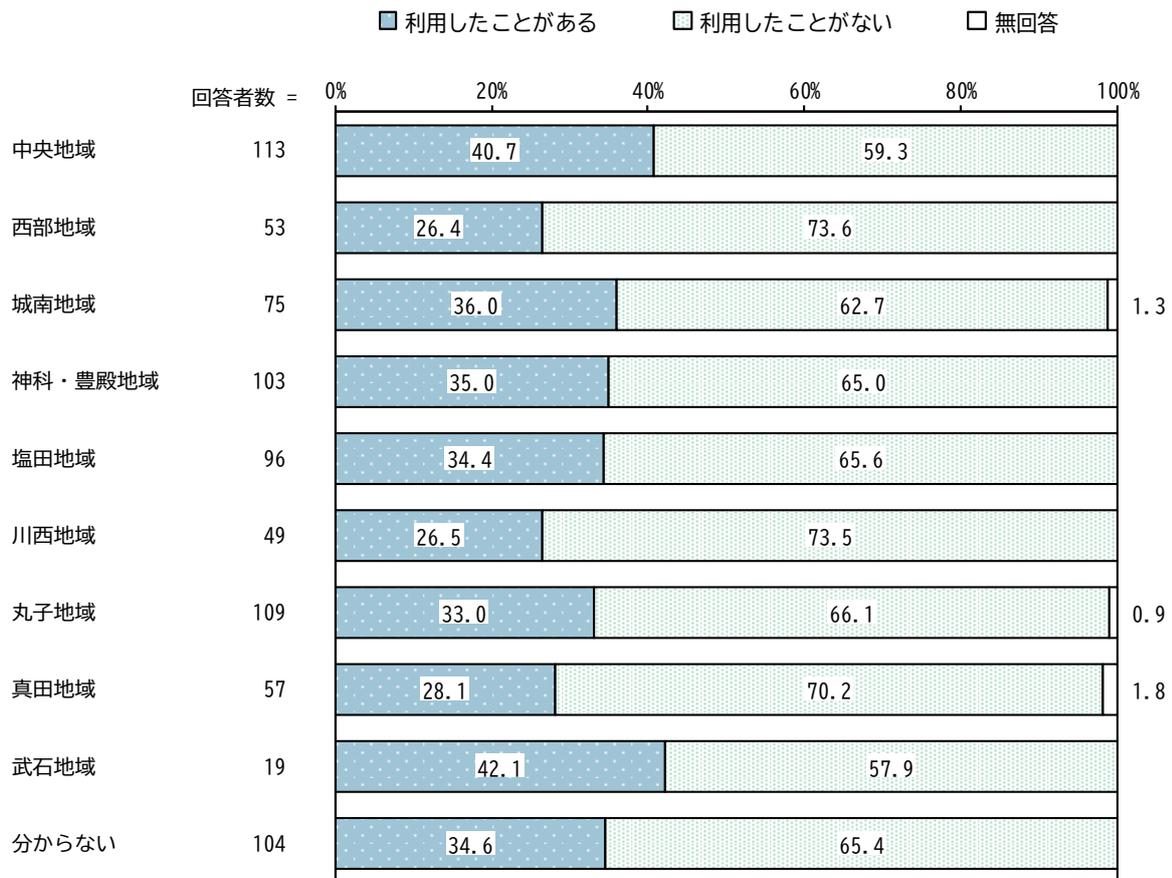
- ・性別・年齢別の回答では、男性より女性の割合が高くなっています。
- ・女性の30～39歳（52.1%）と40～49歳（49.2%）の割合が特に高くなっています。
- ・男性では30～39歳（37.8%）の割合が最も高くなっています。

【利用状況 性・年齢別】

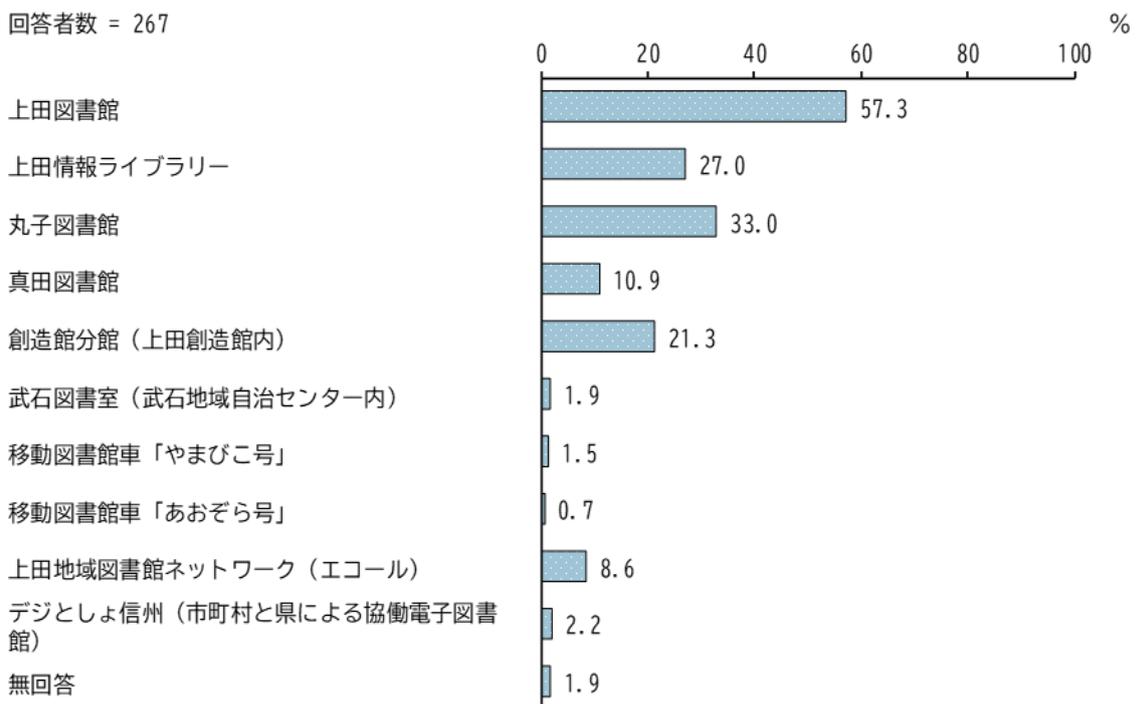


- ・ 地区別では、中央地域（40.7%）と武石地域（42.1%）での利用率が高くなっています。
- ・ 西部地区（26.4%）、川西地区（26.5%）、真田地区（28.1%）は相対的に低くなっています。
- ・ 利用した施設では、「上田図書館」（57.3%）が最も高く、次に「丸子図書館」（33.0%）、その次が「上田情報ライブラリー」（27.0%）の順になっています。

【利用状況 地区別】



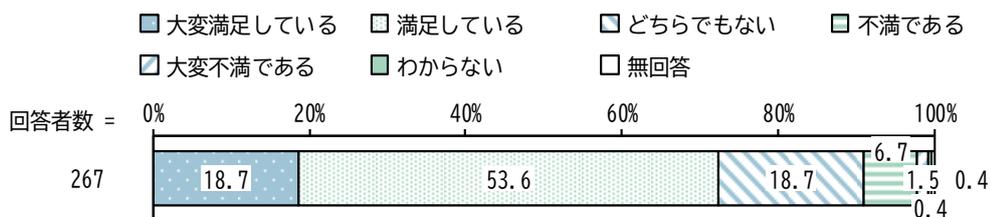
【利用した施設・サービス】



②図書館の満足度（問24）

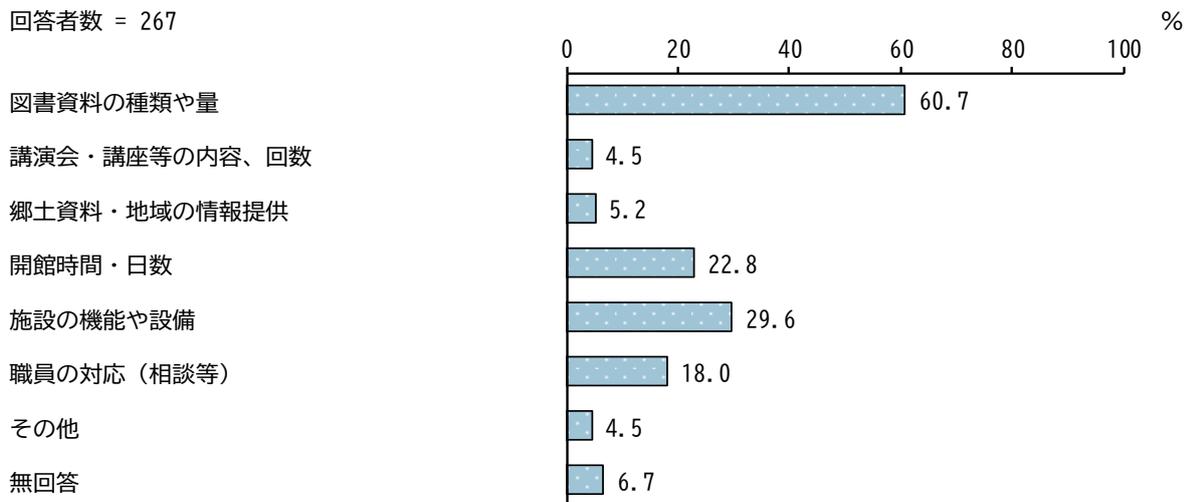
- ・図書館を利用した人のうち、「大変満足している」と「満足している」を合わせた「満足している」の割合は72.3%でした。
- ・一方、「不満である」と「大変不満である」を合わせた「不満である」の割合は8.2%でした。

【満足度 全体】



・満足している主な理由として、「図書資料の種類や量」が60.7%で最も高く、次に「施設の機能や設備」(29.6%)、「開館時間・日数」(22.8%)が挙げられています。

【満足度 主な理由2つまで】

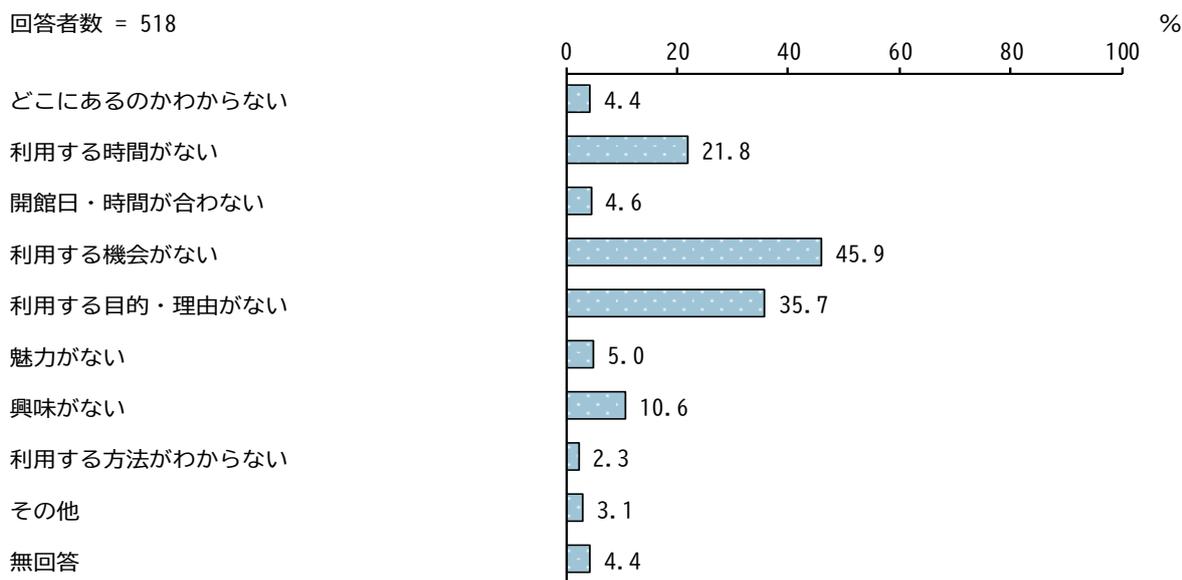


③図書館を利用しない理由（問25）

- ・図書館を利用しない主な理由としては、「利用する機会がない」(45.9%)が最も多く、「利用する目的・理由がない」(35.7%)、「利用する時間がない」(21.8%)が続きました。

【利用したことがない 主な理由2つまで】

回答者数 = 518

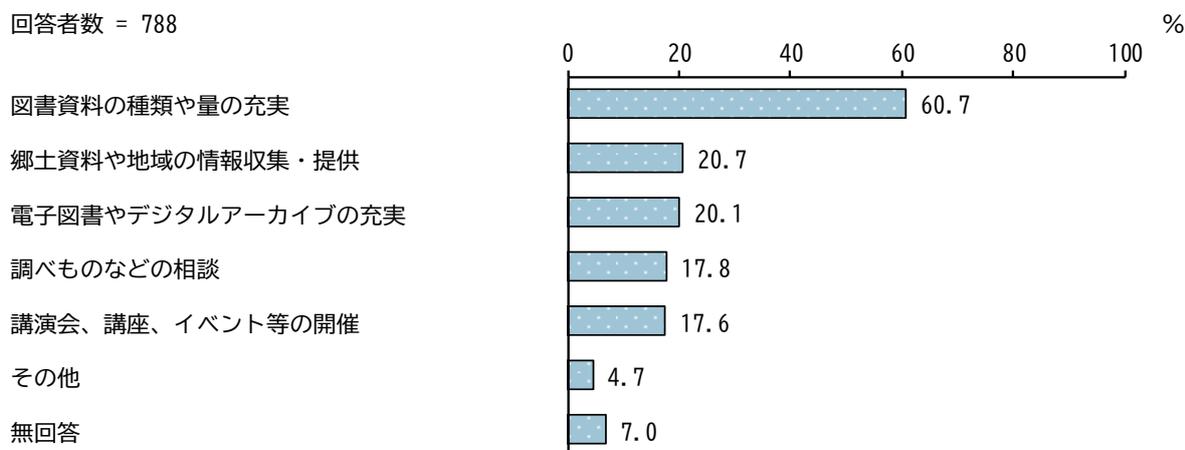


④図書館に期待する役割 (問 26)

- ・図書館に期待する役割について、最も多かった回答は「図書資料の種類や量の充実」(60.7%)でした。
- ・2番目が「郷土資料や地域の情報収集・提供」(20.7%)、3番目が「電子図書やデジタルアーカイブの充実」(20.1%)。4番目が「調べものなどの相談」(17.8%)、5番目が「講演会、講座、イベント等の開催」(17.6%)という結果でした。

【図書館に期待する役割 重要と考えるもの2つまで○】

回答者数 = 788



- ・ほぼ全ての性・年齢別の回答で「図書資料の種類や量の充実」が高い割合を占めていますが、それ以外の図書館に期待する役割の回答結果は、性別及び年齢別で異なる傾向が現れました。
- ・「郷土資料や地域の情報収集・提供」については、男性の70～79歳(41.9%)、80歳以上(38.9%)で割合が高くなる傾向が見られました。
- ・「電子図書やデジタルアーカイブの充実」については、男女ともに18～29歳の若い年齢(男性40.7%、女性26.7%)で割合が高くなる傾向が見られました。
- ・「調べものなどの相談」については、女性の50～59歳(24.6%)、女性の70～79歳(23.3%)で割合が高くなる傾向がみられました。
- ・「講演会、講座、イベント等の開催」については、女性の70～79歳(32.6%)、男性の80歳以上(27.8%)で割合が高くなる傾向が見られました。

【図書館に期待する役割 性・年齢別】

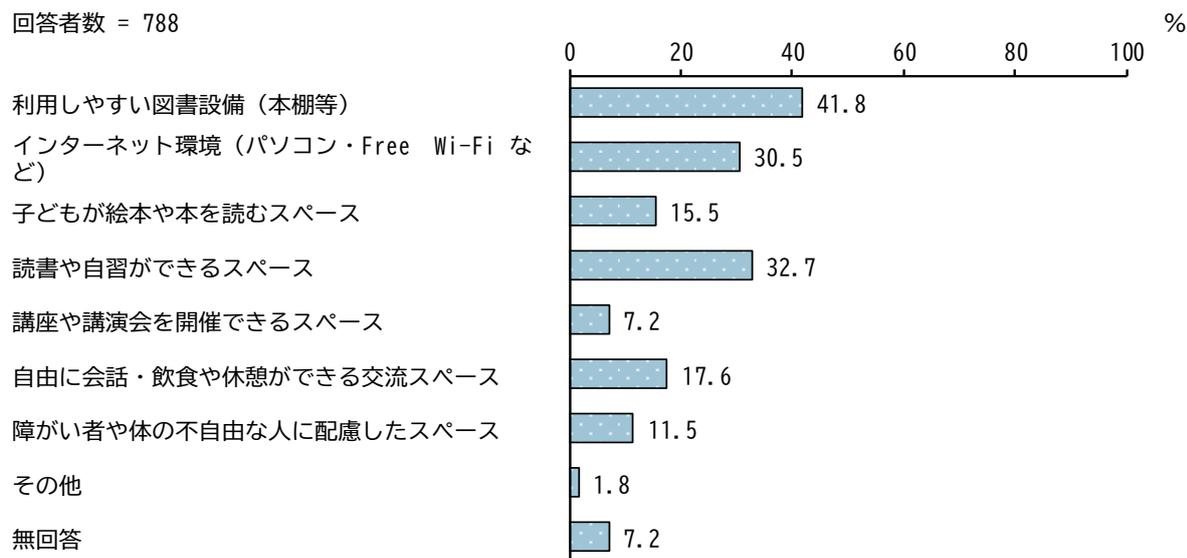
区分	回答者数(件)	図書資料の種類や量の充実	郷土資料や地域の情報収集・提供	電子図書やデジタルアーカイブの充実	調べものなどの相談	講演会、講座、イベント等の開催	その他	無回答
全体	788	60.7	20.7	20.1	17.8	17.6	4.7	7.0
男性 18～29歳	27	74.1	25.9	40.7	18.5	7.4	—	—
30～39歳	45	71.1	22.2	26.7	15.6	6.7	8.9	6.7
40～49歳	46	58.7	21.7	28.3	15.2	10.9	6.5	8.7
50～59歳	66	50.0	24.2	31.8	13.6	18.2	10.6	3.0
60～69歳	79	53.2	22.8	27.8	19.0	19.0	6.3	2.5
70～79歳	62	46.8	41.9	12.9	22.6	16.1	3.2	8.1
80歳以上	18	27.8	38.9	—	16.7	27.8	5.6	16.7
女性 18～29歳	45	75.6	17.8	26.7	22.2	6.7	8.9	2.2
30～39歳	71	73.2	11.3	22.5	9.9	18.3	4.2	—
40～49歳	61	88.5	16.4	21.3	18.0	14.8	3.3	1.6
50～59歳	69	63.8	13.0	23.2	24.6	20.3	4.3	1.4
60～69歳	91	63.7	11.0	7.7	18.7	22.0	3.3	8.8
70～79歳	43	46.5	18.6	2.3	23.3	32.6	—	18.6
80歳以上	42	33.3	21.4	2.4	11.9	21.4	—	33.3

⑤図書館に期待する機能(問26)

- ・図書館に期待する機能について、最も多かった回答は「利用しやすい図書設備(本棚等)」(41.8%)でした。
- ・2番目が「読書や自習ができるスペース」(32.7%)、3番目が「インターネット環境(パソコン・Free Wi-Fiなど)」(30.5%)、4番目が「自由に会話・飲食や休憩ができる交流スペース」(17.6%)、5番目が「子どもが絵本や本を読むスペース」(15.5%)、6番目が「障がい者や体の不自由な人に配慮したスペース」(11.5%)という結果でした。

【図書館に期待する機能 全体】

回答者数 = 788



- ・ほぼ全ての性・年齢別の回答で「利用しやすい図書設備 (本棚等)」が高い割合を占めていますが、それ以外の図書館に期待する機能の回答結果は、性別及び年齢別で異なる傾向が現れました。
- ・「読書や自習ができるスペース」については、女性の18～29歳(51.1%)と40～49歳(50.8%)のニーズが高い傾向でした。男性は幅広い年代で30%台のニーズがありますが、特に30～39歳が35.6%と最も高い割合でした。
- ・「インターネット環境 (パソコン・Free Wi-Fi など)」については、18～29歳の男女で最もニーズが高く、特に男性はこの年齢で74.1%と非常に高い割合です。また、50～59歳でも、男性が51.5%、女性が33.3%と一定のニーズがあることがわかります。
- ・「自由に会話・飲食や休憩ができる交流スペース」については、男女ともに40代以上の年代でニーズが高い傾向です。男性は40～49歳で26.1%、女性は60～69歳で27.5%でした。
- ・「子どもが絵本や本を読むスペース」については、男性は40～49歳(26.1%)と30～39歳(24.4%)で高い割合を示しており、女性は30～39歳で47.9%と非常に高い割合でした。これは子育て世代のニーズを反映していると推測でき、子どものためのスペースが非常に重要であることがわかります。
- ・「障がい者や体の不自由な人に配慮したスペース」については、70歳以上の女性(70～79歳で20.9%、80歳以上で21.4%)の割合が高く、高齢の方にこれらの配慮を求められていることがわかります。

【図書館に期待する機能 性・年齢別】

区分	回答者数(件)	利用しやすい図書設備(本棚等)	インターネット環境(パソコン・Free Wi-Fiなど)	子どもが絵本や本を読むスペース	読書や自習ができるスペース	講座や講演会を開催できるスペース	自由に会話・飲食や休憩ができる交流スペース	障がい者や体の不自由な人に配慮したスペース	その他	無回答
全体	788	41.8	30.5	15.5	32.7	7.2	17.6	11.5	1.8	7.2
男性 18～29歳	27	37.0	74.1	3.7	29.6	—	18.5	11.1	—	—
30～39歳	45	35.6	35.6	24.4	35.6	—	15.6	8.9	2.2	8.9
40～49歳	46	43.5	30.4	26.1	34.8	4.3	26.1	4.3	4.3	4.3
50～59歳	66	33.3	51.5	13.6	33.3	10.6	13.6	9.1	4.5	—
60～69歳	79	41.8	34.2	5.1	32.9	7.6	15.2	11.4	2.5	5.1
70～79歳	62	40.3	25.8	4.8	32.3	16.1	21.0	4.8	3.2	9.7
80歳以上	18	27.8	5.6	—	16.7	16.7	22.2	11.1	5.6	27.8
女性 18～29歳	45	42.2	51.1	15.6	51.1	2.2	11.1	8.9	4.4	—
30～39歳	71	50.7	33.8	47.9	23.9	—	11.3	8.5	—	1.4
40～49歳	61	45.9	29.5	18.0	50.8	3.3	13.1	14.8	—	1.6
50～59歳	69	46.4	33.3	11.6	34.8	7.2	11.6	10.1	1.4	2.9
60～69歳	91	53.8	18.7	12.1	34.1	8.8	27.5	15.4	—	3.3
70～79歳	43	32.6	7.0	14.0	27.9	14.0	20.9	20.9	—	16.3
80歳以上	42	33.3	—	2.4	9.5	7.1	23.8	21.4	—	42.9

⑥自由回答

自由回答では、施設に関する意見が3件ありました。

図書館の休館日や開館時間の改善を求める意見や、読書や学習スペースの不足を指摘する声、施設の老朽化に伴う建替を要望する意見等が寄せられました。

3 調査結果からわかること

図書館に対して最も多い要望は、図書資料の種類や量の充実、利用しやすい図書設備(本棚等)の充実です。

一方、郷土資料や調べものの支援、電子図書等の整備といったことも、図書館の役割として期待する声があります。

また、落ち着いて読書や自習ができたり、子どもが自分で本や絵本を読むスペース、高齢者や障がい者に配慮した施設の充実を図書館に求めていることもわかりました。

第3節 上田市の図書館の現状分析 — 『日本の図書館 統計と名簿』より—

第二次基本構想の「第6章 今後の図書館のあり方」では、上田市の図書館が全体で目標とする蔵書数を「80万冊」としていました。これは、平成13年に日本図書館協会が発表した政策提言「図書館による町村ルネサンス Lプラン21」と、平成15年に発表した「公立図書館の任務と目標」のうちの「図書館システム整備のための数値基準」を用いて試算したものでした。

その後、同協会では、令和7年に「図書館システム整備のための数値基準 2023年改定」（以下、数値基準2023（※））を発表しており、全国の市町村や図書館が、各図書館の数値と数値基準2023を比較し、目指す水準、指標を定める等により、図書館の発展に活用してほしいとしています。

※数値基準2023…『日本の図書館 統計と名簿2023』に掲載された全国の市町村立図書館のうち、奉仕人口一人当たりの資料貸出数上位10%の図書館を選び出し、人口段階ごとに図書館の貸出冊数等の平均値を算出し、基準値としたもの

また、数値基準の基である『日本の図書館 統計と名簿（以下、日本の図書館）』は毎年発行されており、全国の市町村立図書館の個人貸出冊数、奉仕人口、蔵書冊数等の統計資料です。1年間の個人貸出冊数を奉仕人口で除した数値である「貸出密度」や個人貸出冊数は、図書館の活動評価の指標としてよく使用されています。

以下では、数値基準2023、日本の図書館に掲載されている個人貸出冊数等の指標を使用して、上田市の図書館の現状を分析します。

1 数値基準2023の基準値と上田市の比較

数値基準2023では、市町村立図書館の、延床面積、蔵書冊数、開架冊数、資料費、職員数について、人口規模別の基準値を算出する方法が掲載されています。『日本の図書館 統計と名簿2023』に掲載されている上田市の図書館の奉仕人口は155,000人（令和4年1月1日現在の住民基本台帳人口（千人単位））ですので、数値基準2023の算出方法により試算した155,000人規模の自治体の基準値4項目と上田市の数値を比較した表を以下に示します。

項目	基準値 (155,000人規模)	上田市 (日本の図書館2023)	基準値と 上田市の差	上田市分の備考
延床面積	8,071 m ²	6,030 m ²	▲2,041 m ²	上田、情報ライブラリー、丸子、真田の合計面積
蔵書冊数	761,577 冊	617,000 冊	▲144,577 冊	上田、情報ライブラリー、丸子、真田の合計（移動図書館分を含む）
開架冊数	430,586 冊	364,000 冊	▲66,586 冊	
資料費	58,811 千円	35,027 千円	▲23,784 千円	

試算した基準値は、貸出冊数が多い等の利用が活発な自治体の図書館の平均値を使用した計算式で導き出したものですが、延床面積の差が2,041 m²など、基準値と上田市は大きな開きがあります。

2 上田市の奉仕人口一人当たりの個人貸出冊数（貸出密度）の状況について

貸出密度について、令和5年度の実績が掲載されている『日本の図書館 統計と名簿 2024』を用いて、上田市の貸出密度の状況を調べました。ここでの奉仕人口は、令和5年1月1日現在の住民基本台帳人口（千人単位）で、上田市は154,000人です。

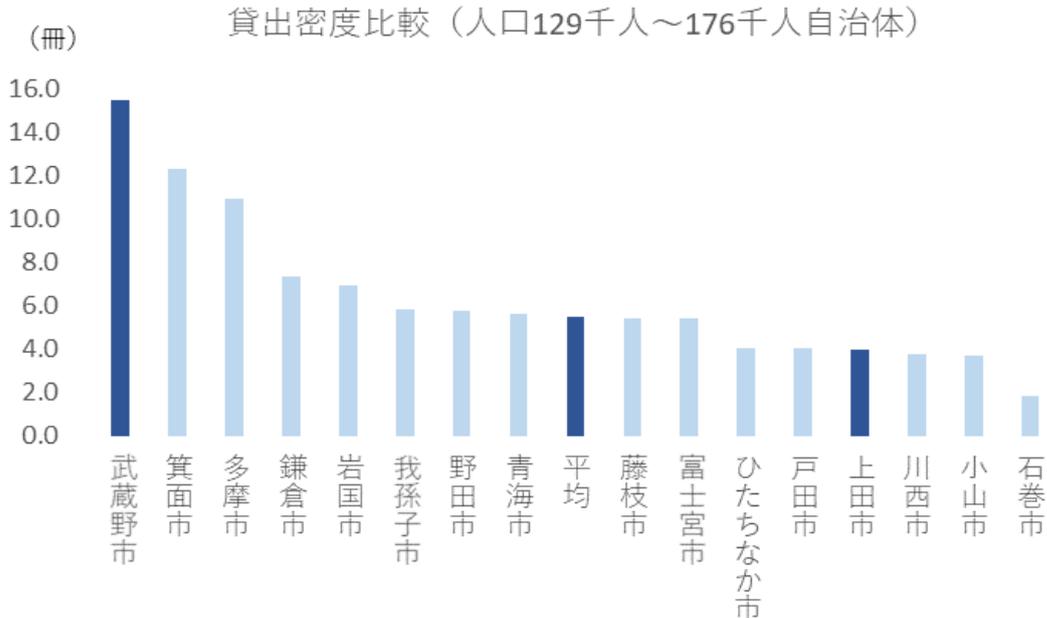
①全国 63 自治体と上田市の比較

上田市の人口を中位とし、25,000人少ない岩国市、富士宮市（129,000人）から、22,000人多い自治体である鎌倉市（176,000人）までの範囲には、63自治体あります。この63自治体の貸出密度の状況について調べました。（資料14参照、以下のグラフは煩雑になるため16市で作成）

貸出密度が高い順に、1位が武蔵野市（15.5冊、148,000人）、2位が箕面市（12.3冊、139,000人）、3位が多摩市（10.9冊、148,000人）でした。

63自治体の平均値は、人口が150,016人、貸出密度は5.5冊です。

上田市は貸出密度3.9冊で、63自治体中49位になります。



②県内 18 市と上田市の比較

長野県内 19 市についても、同じように貸出密度を調べて比較しました。

1位が塩尻市（9.5冊）、2位が安曇野市（7.4冊）、3位が伊那市（6.7冊）で、19市の平均値は5.3冊です。（資料15）

上田市の3.9冊は、県内19市のうち16位になります。

以上から、上田市の人口一人当たりの個人貸出冊数（貸出密度）は、全国的に見ても、県内19市と比べても、平均よりも低い傾向にあることがわかります。

3 平成19年度から令和5年度までの上田市の個人貸出冊数の状況について

上田市の貸出密度は、平均よりも低い傾向にありますが、合併後20年の間には、平成22年11月に真田図書館が開館、平成24年2月に丸子図書館が移転新築されており、これらの館の貸出冊

数は伸びています。

そこで、平成19年度、真田図書館開館直後の平成23年度、丸子図書館開館直後の平成25年度、新型コロナ禍直前の平成29年度、令和5年度の5つの時点の貸出密度や個人貸出冊数の数値を経年で比較してみました。

あわせて、県内19市で貸出密度上位の塩尻市、安曇野市、東信地方の市で貸出密度が最も高い小諸市の状況とも比較しながら、上田市の状況を確認してみます。

①県内3市と上田市の貸出密度の経年変化

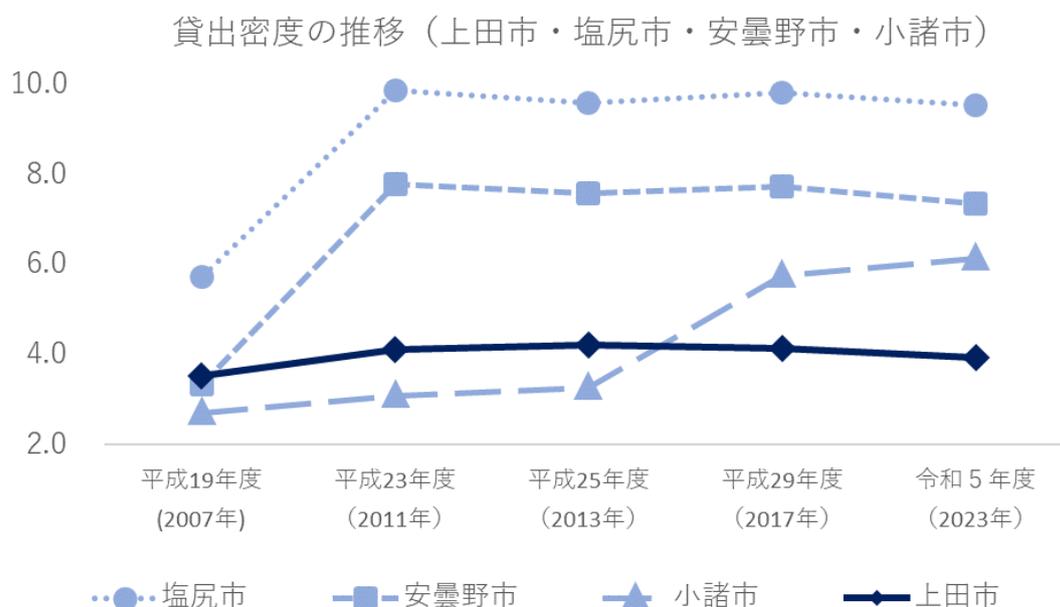
上田市は、平成19年度の貸出密度が3.5冊、平成23年度が4.1冊、平成25年度が4.2冊と、真田図書館、丸子図書館が開館して以後、市全体の貸出密度は伸びていますが、僅かにとどまっています。(資料16)

塩尻市は、平成19年度は5.7冊でしたが、平成23年度に9.9冊と約1.7倍伸びています。平成22年に新しい塩尻市立図書館が塩尻市市民交流センター「えんぱーく」内に新築されました。

安曇野市は、平成19年度は3.3冊でしたが、平成23年度に7.8冊となり、約2.3倍伸びています。平成21年度に安曇野市中央図書館、平成23年度に豊科図書館、平成30年度に三郷図書館が新築されています。

小諸市は、平成19年度は2.7冊でしたが、平成29年度に5.7冊となり、約2.1倍伸びています。平成29年度に市立小諸図書館が新築されています。

上田市以外の市は、新しい図書館がオープンしてから貸出密度が大幅に伸びていることがわかります。



②上田市内4図書館の個人貸出冊数の推移

上田市内の4図書館の個人貸出冊数について、上記と同じ5つの年度の様子を見てみます。

上田図書館は、平成19年度は419,000冊でしたが、平成25年度は358,000冊、令和5年度は

308,000冊に減っています。(資料17)

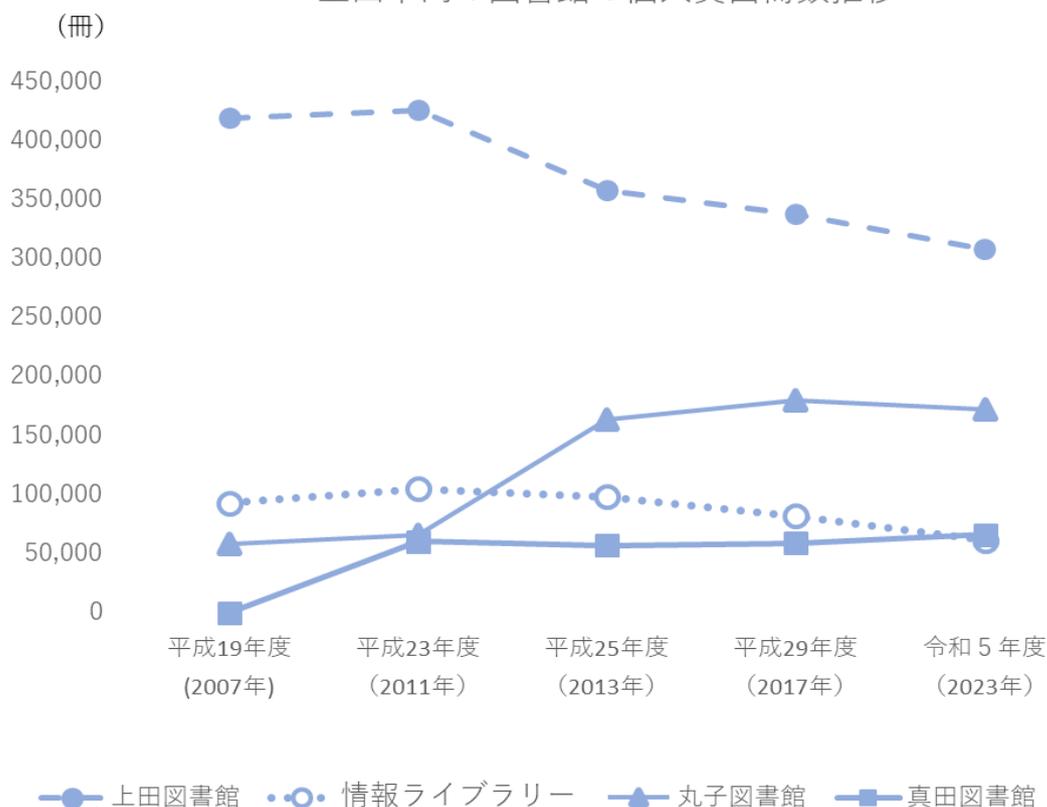
上田情報ライブラリーも、平成19年度は93,000冊、平成25年度は98,000冊でしたが、令和5年度は61,000冊に減っています。

一方、丸子図書館は、旧丸子金子図書館時代の平成19年度は58,000冊でしたが、移転新築後の平成25年度は164,000冊、令和5年度は172,000冊と約3倍に増えています。

真田図書館は、公民館図書室を閉じて新図書館を開館した後、平成23年度は60,000冊、令和5年度は66,000冊で微増の状況です。

上田市は、新しくなった丸子図書館、真田図書館の貸出冊数は伸びている一方、上田図書館、上田情報ライブラリーの貸出冊数は減っています。このことが、市全体の個人貸出冊数の伸び悩みや、全国63市、県内19市、いずれにおいても、上田市が平均より低い貸出密度に止まっている要因の一つであると考えられます。

上田市内4図書館の個人貸出冊数推移



第4節 上田市の図書館の課題 ―第三次基本構想に向けて―

第二次基本構想で進めてきた取組は、社会の変化にあわせて今後も施策として進める必要があります。

「生涯学習に関する市民意識調査」の結果から、多くの市民が図書館に対して図書資料の充実や利用しやすい図書設備（本棚等）を求めていることがわかりました。

加えて、全ての年代において、図書館に滞在して様々な目的で利用をしたいというニーズが強く、読書、自習、絵本などのスペースの充実、施設のバリアフリー化について、一定の要望がありました。

また、郷土資料を始めとする様々な調べもの、インターネットや電子図書、講座等の学習・文化事業に対するニーズも一定程度存在しています。

図書資料等の貸出、滞在型利用、貸出以外の図書館の活用、これらにバランス良く取り組むことで、多様化する市民のニーズに応えられると言えます。

なお、上田図書館、上田情報ライブラリーは、「生涯学習に関する市民意識調査」の結果ではよく利用されている図書館ですが、貸出冊数は減少傾向にあります。特に築55年の上田図書館の老朽化は、市民の図書館利用に影響を与えている可能性があります。

また、上田市の図書館は上田市民には比較的によく利用されている生涯学習施設ですが、貸出密度等の各統計数値のうえでは、同規模自治体や県内他市よりも低い水準にあります。

第三次基本構想では、より多くの市民に図書館のサービスを届けるため、図書館を利用していない人を含めた幅広い市民の声をお聴きし、課題を明らかにし、解決のための施策を推進する必要があります。

第3章 基本理念と3つの基本方針

第3章では、第2章の現状と課題をふまえて、これからの上田市の図書館像である基本理念と、その実現を目指すための具体的な図書館の姿を3つの基本方針として示します。

第1節 基本理念

ひとにやさしく つながり見つかる わたしの図書館

図書館は、本や資料、情報の提供を通じて、豊かな暮らし、人と地域のしあわせを支える機能を持った、誰にでも開かれた身近な学びの場です。

図書館では、一人でも、仲間や家族とでも、学ぶことができます。

新しいこと、昔のこと、身近なこと、遠くのこと、いろいろな世界を知ることができます。

好きなことを見つけたり、知らないことに出会えます。

「何か」に出会うために、ただ居ることもできます。

上田市の図書館は、学ぶ楽しさや知る喜びのきっかけが見つかる図書館の魅力を多くの人たちに伝え、誰にとっても利用しやすく役に立つ「やさしい図書館」、様々な出会いに「つながる図書館」を目指していきます。

そのために、基本理念として「ひとにやさしく つながり見つかる わたしの図書館」を定めました。

第2節 3つの基本方針と具体的な考え方

基本理念を実現するために、図書館の諸施策を3つの基本方針のもと、進めていきます。

以下で、各基本方針の考え方を示します。

1 利用しやすい図書館

より多くの人に図書館を利用していただくため、図書館の基本的なサービスの拡充が求められています。

豊かな蔵書、使いやすさ、親しみやすさ、わかりやすさ、居心地のよさ、安全と安心、図書館へ行きにくい方に対するサービス等、様々な視点から課題を検討し、利用しやすい図書館を目指します。

2 役に立つ図書館

変化の激しい社会の中、誰もが暮らしや仕事で様々な課題や悩みを持っています。

一人ひとりの課題や知りたいことに対して、適切な資料や情報を提供し、市民の主体的な課題解決をサポートする、役に立つ図書館を目指します。

多様な人々が共に生きる社会において、子ども、障がい者、外国籍市民をはじめとする、全ての人にとって役に立つ図書館を目指します。

3 つながりが見つかる図書館

図書館は、人と本・資料・情報、人と人、様々な物事がつながって、新しい気づきや学び、楽しさが生まれる場所です。

市民、地域の様々な団体や組織とつながり、学びと交流を通じて、魅力ある図書館を目指します。

市民が郷土である上田市の歴史や文化と出会い、つながるきっかけをつくり、郷土の魅力を未来へ引き継いでいく図書館を目指します。

第4章 基本施策と取組

第4章では、3つの基本方針で示した図書館づくりを進めるため、具体的に展開していく基本施策とその取組を述べていきます。

また、各基本施策の進捗状況を測る際に参考にする指標の項目を示します。指標に関する数値は毎年図書館協議会等で報告します。目標数値は実績を踏まえて中間評価を行う際に検討して、設定します。

最初に、第3章で述べた基本理念、3つの基本方針と、各基本施策の体系を示します。

基本理念 ひとにやさしく つながり見つかる わたしの図書館

基本方針1 利用しやすい図書館

- 基本施策1 図書館の利用方法の周知と情報発信
- 2 図書館サービス拠点の充実
- 3 資料の収集・保存の適切な実施
- 4 資料の整理・提供の適切な実施
- 5 利用しやすく、居心地のよい施設に向けた整備
- 6 利用しやすい開館日と開館時間
- 7 図書館サービスを行うための職員の育成
- 8 開かれた図書館運営

基本方針2 役に立つ図書館

- 基本施策1 レファレンスサービスの利用促進
- 2 課題解決のための情報提供
- 3 データベース等のデジタル資料の充実と活用
- 4 子どもの読書活動の支援
- 5 バリアフリーサービスの充実
- 6 多文化・多言語サービスの充実

基本方針3 つながりが見つかる図書館

- 基本施策1 市民協働による図書館づくり
- 2 図書館を活用した多様な学習機会や文化イベントの提供
- 3 地域の小中学校の学校図書館の支援
- 4 幼稚園・保育園・放課後児童施設・絵本サークル・読み聞かせ
団体等との連携
- 5 地域の高等学校、大学、専門学校等と連携
- 6 行政、各種機関、団体等の資料・情報の収集、提供及び連携
- 7 郷土資料の収集・整理・保存・活用
- 8 図書館が所蔵する貴重資料の保存と活用

第1節 基本方針1 利用しやすい図書館

より多くの人に図書館を利用していただくため、図書館の基本的なサービスの拡充が求められています。

豊かな蔵書、使いやすさ、親しみやすさ、わかりやすさ、居心地のよさ、安全と安心、図書館へ行きにくい方に対するサービス等、様々な視点から課題を検討し、利用しやすい図書館を目指します。

基本施策1 図書館の利用方法の周知と情報発信

図書館の利用方法の様々な周知方法を検討し、積極的な情報発信を行い、利用者の拡大を目指します。

- ア わかりやすい図書館の利用案内（利用方法、手続き、本棚を含む館内の配置図、テーマ展示の内容や場所）を作成して、掲示、配布します。
- イ 利用していない方の状況（利用者登録が少ない地域、年齢層等）を分析し、効果的な周知方法を検討します。
- ウ 要望に応じて、図書館の利用方法の説明会等を実施します。
- エ 市広報、ホームページ、SNS や報道機関、施設内の掲示を含め、様々な手段により図書館に関する情報発信を行います。

指標の内容		
人口に対する利用登録者数の割合	入館者数	ホームページアクセス数

基本施策2 図書館サービス拠点の充実

図書館サービスを身近で手軽に利用できるよう、図書館サービス拠点の充実に取り組みます。

図書館を利用したくてもできない場合の課題を洗い出し、対策を検討します。

- ア 近隣市町村と連携して上田地域図書館情報ネットワーク（エコール）を継続し、サービス向上の検討を行います。
- イ Web 予約サービスの利用促進を図ります。
- ウ 移動図書館車の巡回を維持し、必要に応じて巡回場所の見直しを行います。
- エ 分室・サービスポイントの周知を行うとともに、運営体制の充実について検討します。
- オ 新たなサービスポイントの設置（場所、サービスの内容や方法）を検討します。
- カ 来館できない方へのサービス（本の宅配サービス等）を研究します。

指標の内容	
Web サービス登録者数	移動図書館貸出冊数

基本施策3 資料の収集・保存の適切な実施

地域の実情や社会の変化に対応し、利用者及び住民の要望を配慮しながら、継承されてきたコレクションに基づいて、適切な蔵書を構築します。

- ア 資料収集方針に基づいた収集を実施します。
- イ 資料除籍基準に基づいた除籍を実施します。
- ウ 資料の書庫保存について、分担保存等の効率的な方法を検討するとともに、管理環境を適切な状態に維持できるよう努めます。
- エ 職員の選書スキルの向上のため、選書ツールの情報収集と共有、研修等を実施します。
- オ 各館の利用者ニーズにあった資料収集を進めつつ、上田市全体の蔵書構成を踏まえ、効果的、効率的な選書及び除籍方法を検討します。
- カ 必要に応じて資料収集方針、資料除籍基準を見直します。

指標の内容		
蔵書冊数	年間資料受け入れ冊数	年間資料除籍数
市民1人あたりの蔵書冊数	市民1人あたり資料費	選書研修の回数

基本施策4 資料の整理・提供の適切な実施

利用しやすく資料を配置し、新たな資料との出会いにつながるテーマ展示や、利用しやすい貸出を実施します。

- ア 配架は分類番号を基本に実施します。
- イ 必要に応じて、利用者にわかりやすい資料の配置の方法を検討します。
- ウ 整理された、資料を手に取りやすく利用しやすい書架の維持に努めます。
- エ 館独自、又は他団体等と連携して、タイムリーな、市民の興味関心に応えるテーマ展示を実施するとともに、必要に応じて展示した資料のブックリストを作成します。
- オ 自動貸出機の導入等により、利用しやすく、プライバシーに配慮した貸出を行います。
- カ 利用者の求めに対して読書相談に応じられるよう職員のスキル向上を図ります。
- キ 複写サービスは、著作権法に則り実施します。

指標の内容	
テーマ展示の回数	市民1人あたりの貸出冊数

基本施策5 利用しやすく、居心地のよい施設に向けた整備

誰にとってもわかりやすいように、館内表示やサイン等を工夫します。

多様な利用目的に応じた使い方ができる、居心地のよい図書館を目指します。

- ア ユニバーサルデザインの視点から、施設内を点検し、改善を検討します。
- イ 障がい者や高齢者にとって使いやすい施設となるよう、バリアフリー化を進めます。
- ウ ゾーニングやルールを定めて、会話できる空間と静かな空間が共存できる空間づくりを進めます。

- エ 適切な空調管理や飲食スペースの確保等、滞在型利用に対応した空間づくりを進めます。
- オ 犯罪、迷惑行為等に適切に対応し、館内の安全強化を図ります。
- カ 災害発生時の図書館としての危機管理対応を検討します。

指標の内容	
防犯や災害対応の研修及び訓練の回数と内容	施設のバリアフリー化の実施事例

基本施策6 利用しやすい開館日と開館時間の検討

- 多くの市民が利用しやすい開館日と開館時間を検討します。
- ア 開館日と開館時間について、利用実態と市民ニーズを把握します。
 - イ 運営に必要な休館日や、職員体制の観点から対応できる開館時間を踏まえて、検討します。
 - ウ 変更する場合は、十分な周知期間と試行期間を設けます。

基本施策7 図書館サービスを行うための職員の育成

- 職員の専門性やスキルの向上を図るため、館内研修の実施及び館外研修の参加を進めます。研修を通じて、職員には利用者と資料・情報をつなげる役割があるという自覚を高めていきます。
- ア 職員は、図書館法、著作権法等、図書館に係る権利の諸規定について熟知してサービスを行います。
 - イ 県立図書館及び県図書館協会の研修に計画的に参加します。
 - ウ 文化庁、国立国会図書館、日本図書館協会等が主催する全国規模の研修に、必要に応じて参加します。
 - エ 上田市の図書館として独自の研修を計画的に実施します。
 - オ 充実した図書館サービスを行うため、必要な司書有資格者の人数等、職員体制について調査・研究を行います。

指標の内容	
研修の回数	研修名

基本施策8 開かれた図書館運営

- 図書館についての各種計画や実績、運営の状況等を市民に周知します。
- 適切な時期に、利用者や市民との懇談会、アンケート等を実施して、市民の声を図書館運営に活かします。
- ア 毎年度、事業計画、事業概要を策定し、図書館協議会に報告するとともに、ホームページ等で公開します。
 - イ 図書館基本構想で設定した各指標について、適切な時期に状況を検証し、必要に応じて改善策を検討します。
 - ウ 図書館の利用者に対して適切な時期にアンケートを行い図書館運営の改善につなげます。

- エ 図書館を利用していない方を含めた、図書館に対する市民の意識調査を、アンケート等により実施します。
- オ 市民と図書館について懇談する機会を設け、市民の声を把握した図書館運営に努めます。

指標の内容
アンケートの実施

第2節 基本方針2 役に立つ図書館

変化の激しい社会の中、誰もが暮らしや仕事で様々な課題や悩みを持っています。

一人ひとりの課題や知りたいことに対して、適切な資料や情報を提供し、市民の主体的な課題解決をサポートする、役に立つ図書館を目指します。

多様な人々が共に生きる社会において、子ども、障がい者、外国籍市民をはじめとする、全ての人にとって役に立つ図書館を目指します。

基本施策1 レファレンスサービスの利用促進

図書館の利用方法の様々な周知方法を検討し、積極的な情報発信を行い、利用者の拡大を目指します。

- ア レファレンスサービスの利用方法について、わかりやすい広報を行います。
- イ 相談しやすい場所を設け、場所がわかるよう表示等を工夫します。
- ウ 市内図書館のレファレンス事例を共有し、レファレンス事例をホームページや館内等で公開します。
- エ 職員のレファレンススキルを向上するため、データベースや参考書籍等のレファレンスツールの利用方法を含めた研修を実施します。
- オ 国立国会図書館のレファレンス協同データベース事業の活用を進めます。

指標の内容	
年間のレファレンス件数	レファレンス研修の件数

基本施策2 課題解決のための情報提供

市民の課題解決を支援するため、ビジネス、子育て、健康、行政等の資料及び情報の収集、整備、提供を行います。

- ア 就職、転職、起業、職業能力開発、子育て、教育、健康、医療、福祉、法律、行政等、関係機関が発行する機関紙等の資料を収集、整備して提供します。
- イ インターネットを利用した情報収集のため、インターネット用のパソコン、Free Wi-Fi等の設備を整えます。
- ウ 参考資料の設置、各種データベース用のパソコンを設置し、専門的な情報収集を支援します。
- エ 必要に応じて、市・県・国の関係機関や大学等の研究機関、公的団体や企業等に情報提供の協力を依頼します。

基本施策3 データベース等のデジタル資料の充実と活用

図書館として必要なデジタル資料について整備し、市民に提供します

- ア 各種データベース用のパソコンを館内に設置し、利用を促進します。
- イ 国会図書館が提供するWebサービス（デジタルコレクション、歴史的音源等）用のパソコンを館内に設置し、利用を促進します。

- ウ 市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」の利用を促進します。
- エ 上田市等で整備しているデジタルアーカイブの利用を促進します。
- オ 各種データベース等のデジタル資料の利用方法について案内できるように、職員の研修を実施します。
- カ 図書館でのデジタル資料の利用方法の説明を市民向けに実施します。

指標の内容	
データベース利用回数	デジとしょ信州登録者数

基本施策4 子どもの読書活動の支援

子どもの読書活動を推進するため、年齢に応じた資料の収集と提供を行います。

関係機関と連携し、子どもの読書環境を充実させる取組を行います。

- ア 収集方針、除籍方針に基づき、蔵書構成を充実します。
- イ 絵本、児童コーナーは書架や表示について、子どもが親しみを持てる工夫を施します。
- ウ ティーンズコーナーを設置し、中高生等の青少年の利用を促進します。
- エ 企画展示やブックリスト等により、情報提供を行います。
- オ おはなし会等の本に親しむ催しを開催します。
- カ ブックスタート・セカンドブック事業により、子どもが本に親しむきっかけを提供します。
- キ エコールにより小中学校の図書館を支援します。
- ク 団体貸出により高等学校や幼稚園・保育園、読み聞かせグループや子育てグループを支援します。
- ケ 職場体験等の受け入れ等を実施し、図書館に対する子どもの理解を促します。
- コ 子どもの読書活動を推進する人材育成のための講座等を開催します。
- サ 子ども読書活動推進計画の事務局として、学校、家庭、民間、公共図書館が連携して子どもの読書環境を整備する取組を進めます。

指標の内容	
児童書・絵本の蔵書数	年間資料受け入れ冊数
おはなし会開催回数	職場体験等の受け入れ件数

基本施策5 バリアフリーサービスの充実

誰もが読書ができる社会を目指す「読書バリアフリー法」の趣旨を踏まえ、バリアフリーサービスに取り組みます。

- ア 大活字本や点字図書、LLブック等の収集、提供を行います。
- イ 録音図書の作製、貸出を行い、利用を促進します。
- ウ 音訳ボランティアの養成に取り組みます。
- エ 拡大読書器の設置、広い通路、車椅子で利用できる机等、施設・設備のバリアフリー化を進めます。

- オ 障がい者が必要とする情報や本の内容にアクセスできるサービスや、サービスの情報提供について、上田点字図書館、福祉団体等と連携して研究、検討を行います。

指標の内容		
大活字本蔵書冊数	大活字本年間資料受け入れ冊数	録音図書蔵書数
	録音図書年間作製件数	録音図書貸出件数

基本施策6 多文化・多言語サービスの充実

市内に在住する外国籍市民等の状況、ニーズに応じて、多文化・多言語サービスを行います。

- ア 外国籍市民の状況やニーズの把握に努めます。
- イ 外国籍市民のニーズに対応した、子どもから大人までを対象とした多言語資料を収集します。
- ウ 多言語による生活情報、行政情報の収集と提供を行います。
- エ 日本語学級・日本語教室グループと連携して、日本語学習の資料の充実を図ります。
- オ 多言語に対応した図書館の利用案内の作成、館内表示を設置します。
- カ 外国籍市民の相談と支援を担当する部門、関係団体と連携し、ニーズの把握や必要なサービスの検討を行います。

指標の内容	
外国語資料蔵書数	外国語資料年間受け入れ冊数

第3節 基本方針3 つながりが見つかる図書館

図書館は、人と本・資料・情報、人と人、様々な物事がつながって、新しい気づきや学び、楽しさが生まれる場所です。

市民、地域の様々な団体や組織とつながり、学びと交流を通じて、魅力ある図書館を目指します。

市民が郷土である上田市の歴史や文化と出会い、つながるきっかけをつくり、郷土の魅力を未来へ引き継いでいく図書館を目指します。

基本施策1 市民協働による図書館づくり

市民が図書館事業の企画や運営に参加し、共に魅力ある図書館づくりを進めます。

- ア 図書館運営のサポート（資料展示、図書修理等）、学習・文化事業（おはなし会、音楽会、情報リテラシー向上のサポート等）について、学習団体、ボランティア団体、NPO法人、市民ボランティア等の創意工夫を活かしながら、協働して進めます。
- イ 市民が参加するきっかけとするため、図書館や市民協働の図書館づくりを学ぶ、ボランティア研修を実施します。
- ウ 市民協働の図書館づくりに携わる各種団体が交流できる場を検討します。

基本施策2 図書館を活用した多様な学習機会や文化イベントの提供

生涯学習施設として、図書館の資源を活かした多様な学習機会を提供します。

市民が図書館へ目を向け利用のきっかけとなるような、図書館と市民のつながりを作る取組を進めていきます。

- ア 様々な年代や、多様な興味関心に対応した、講座・講演会、文化イベントを開催します。
- イ 市民や各種機関と連携した事業を実施します。

指標の内容
事業の回数

基本施策3 地域の小中学校の学校図書館の支援

子どもの読書活動の環境整備として、小中学校の学校図書館の支援を行います。

- ア エコールにより小中学校の図書館を支援します。
- イ 子どもたちの図書館への要望、学校図書館の運営上の課題について、学校司書、学校教育課と連携しながら把握して、課題解決に取り組みます。
- ウ 学校教育課と連携して、学校司書の研修の機会を設けます。

指標の内容
学校図書館のエコール貸出本の冊数

基本施策4 幼稚園・保育園・放課後児童施設・絵本サークル・読み聞かせ団体等との連携

子どもの読書活動の環境整備として、小中学校以外の、地域の子どもの育成に関わる様々な施設や団体との連携を図り、支援を進めます。

関係機関と連携し、子どもの読書環境を充実させる取組を行います。

- ア 団体貸出による支援を進めます。
- イ 必要に応じて、移動図書館の巡回を検討します。
- ウ 幼稚園・保育園等の未就学児の図書館見学を受け入れます。
- エ 子ども読書活動推進計画への参画を呼びかけるとともに、要望や課題を把握して、支援を進めます。

指標の内容	
団体登録件数	団体貸出冊数

基本施策5 地域の高等学校、大学、専門学校等と連携

市内の高等学校及び大学等の図書館や、高等学校、大学、専門学校と連携し、学生の教育活動の支援や読書機会の拡大に向けた取組を進めます。

- ア 高等学校及び大学の図書館と、館種の違いを相互に理解しながら、図書館として学生や地域にできることを研究・検討します。
- イ 高等学校の教育活動を支援するため、団体貸出を行います。
- ウ 高校生や大学生等の社会参加、キャリア実習の支援をします。
- エ 学術研究機関である大学等が発行する機関紙等の資料を収集し提供します。

指標の内容		
団体登録件数	団体貸出冊数	司書実習・インターンシップ受入件数

基本施策6 行政、各種機関、団体等の資料・情報の収集、提供及び連携

行政をはじめ、市内の各種機関・施設・団体・企業等の資料や情報を収集し、提供します。また、各所との連携を進めます。

- ア 上田市の行政資料について、積極的・継続的に収集、保存し、提供します。
- イ 上小地域、県、国の資料について、収集、提供します。
- ウ 公民館、博物館、点字図書館、公文書館、美術館等、社会教育・文化施設の資料、情報を収集し、提供します。
- エ 公的団体や各種法人、市内企業の資料、情報を収集し、提供します。
- オ 市民の社会教育活動、文化活動、ボランティア活動に関する資料や情報を収集し、提供します。
- カ 行政、社会教育・文化施設、団体や法人等と連携して、資料の企画展示やイベント等を実施します。また新たな協働事業を研究・検討します。

指標の内容
関係機関と連携した企画展示数と具体的な事例

基本施策7 郷土資料の収集・整理・保存・活用

地域の歴史、文化、人物、自然に関する郷土資料は上田市の財産です。

郷土資料を収集・管理し、資料の活用を通じて、身近な地域とのつながりの発見や、郷土愛を育むことにつなげていきます。

- ア 郷土資料を積極的、継続的に収集し、適切に保存します。
- イ 郷土資料の整理、データ登録を行い、活用につなげます。
- ウ 郷土資料に精通した職員の育成を図ります。
- エ 学識経験者、研究者や歴史研究団体と連携し、郷土資料の活用を図ります。

指標の内容
郷土資料蔵書冊数 郷土資料新規登録タイトル数 活用イベント開催回数

基本施策8 図書館が所蔵する貴重資料の保存と活用

「花月文庫」をはじめとする貴重資料は、上田市の財産です。

これらを適切に保存して後世に遺すとともに、活用を図り価値を広めます。

- ア 貴重資料を適切に保存するため、修理等を進め、保存環境の構築を図ります。
- イ 貴重資料の整理、データ登録を行い、活用につなげます。
- ウ 貴重資料のデジタル化の推進は、図書館としての方針に基づき、市の情報政策担当部署、専門家、専門機関と連携して進めていきます。
- エ これまでにデジタル化した資料をホームページ等で周知し、活用につなげます。

指標の内容
保存・活用の方針を策定 所蔵資料でデジタル化した点数

第5章 今後の上田市の図書館の施設整備と運営

第1節 上田市の公共施設マネジメントについて

1 上田市公共施設マネジメント基本方針

上田市の公共施設のうち、主に昭和40年代から50年代にかけて建設された多くの施設は老朽化し、建替等が必要な時期を迎えています。一方、本格的な人口減少社会を迎え、税収減や社会保障関連経費の増大が見込まれており、持続的な行財政運営を行っていく必要から、上田市として「公共施設マネジメント」の取り組みを進めています。

平成28年3月に「上田市公共施設マネジメント基本方針」を策定し、市の公共施設を適切に維持管理し、有効に利活用するため、公共施設5原則を定めました。

公共施設5原則は、市の公共施設の総量の縮減、適切な維持管理による耐用年数までの使用、施設整備の際は統廃合や複合化を検討、公共施設の集約化とネットワーク化、市民の理解と協力、が主な内容です。

2 上田市図書館施設整備計画

上田市公共施設マネジメント基本方針に基づいて、各施設は個別施設計画を策定しました。図書館では令和3年4月に上田市図書館施設整備計画を策定しました。

この計画では、市内4図書館の施設ごとの老朽度や利用度等の状況を把握・分析し、今後の施設のあり方や整備等の有効性や必要性、優先度等についての考え方を整理し、対策と実施時期を定めました。

上田図書館は、昭和45年の建設で老朽化が進んでいるため、耐用年数60年を迎える令和12年度を目標に改築を進めることとしました。施設整備は、図書館の機能を十分確保したうえで、他施設との複合化も検討することとしました。この間、先進地の研究や視察を進め、令和5年度から具体的な検討を始めました。

上田情報ライブラリー、丸子図書館、真田図書館は、適切な維持管理を実施することとし、このうち上田情報ライブラリーは、令和6年度に脱炭素化推進事業として省エネルギー型照明機器(LED照明)を導入しました。

3 上田市公共施設等総合管理計画

令和8年3月、上田市公共施設マネジメント基本方針と上田市公共施設白書を統合した「上田市公共施設等総合管理計画」が策定されました。計画期間は令和8年度から17年度までの10年間とされ、同計画においても、公共施設5原則が引き継がれています。

各施設は、令和8年4月以降に新たな個別施設計画を策定していきます。これまで、上田図書館の整備は、令和12年度を目標としてきましたが、現段階では達成不可能であるため、次期計画において、新たな建設の目標年度を検討します。

目標を掲げるにあたって、上田図書館の施設(昭和45年建設)は長野県内の公共図書館120館のうち最も古い建設年度であり、耐震化、バリアフリー化等の対応も未整備であることに留意

する必要があります。

第2節 新しい上田図書館の施設整備の方向性

1 新しい上田図書館を整備する際の基本的な考え方

新しい上田図書館の整備は、「ひとにやさしく つながり見つかる わたしの図書館」を基本理念とする第三次基本構想の諸施策を総合的に推進する、上田市の中核となる図書館を整備することでもあります。

上田図書館が築き上げてきた資料の蓄積や諸施策を引き継ぎつつ、地域と市民のしあわせを支え、誰にでも開かれた身近な学びの拠点を創る視点で、未来に向けた新しい施設を目指します。

新図書館建設の推進が決定し、基本計画を策定する際には、アンケートやワークショップ等により市民が参加する場を設けていきます。また現代の図書館整備には専門性が必要であり、専門家の意見・助言を取り入れて策定していきます。

2 新しい上田図書館の施設規模と整備手法について

日本図書館協会が令和7年に発表した「図書館システム整備のための数値基準 2023年改定」を参照して計算した15万人規模の自治体が目標とするべき基準からは、今の上田市の図書館の延床面積は2000㎡余の開きがあります。(第2章参照)

一方、上田市公共施設マネジメント基本方針で示されている通り、これからの公共施設の建替えでは、施設単独で施設規模を大きくすることは非常に難しくなっています。

新しい上田図書館の施設整備にあたっては、上田市4図書館の延床面積が上田市規模の自治体としては必ずしも大きくないことと、上田市公共施設マネジメント基本方針の両方の視点を踏まえて施設規模を検討していく必要があります。

また、公共施設を新たに整備する際は、整備手法として他施設との合築、複合化を基本に検討することが同方針には定められています。図書館整備を目的とした国等の補助金や地方債のメニューは無く、図書館単独で建設することは困難なため、財源の観点からも施設の複合化を検討していく必要があります。

第3節 上田市の図書館運営について

1 図書館の運営形態

第二次基本構想では、図書館の運営形態について、「市民協働の推進を図りながら、当面は直営により運営」する方針を定めました。第三次基本構想においても、この方針を踏襲します。

直営以外の運営形態である指定管理者制度や一部業務の委託等については、時代のニーズや図書館を取り巻く状況を勘案しながら研究していきます。

2 図書館の連携

第二次基本構想では、上田市の各図書館の機能の明確化、役割分担を進めることを方針として

掲げました。この方針により、各館の特色ある事業や資料の収集等の具体的な図書館サービスを進めることができました。

第三次基本構想では、特色ある事業や地域との関わりを大切にしつつ、全図書館が緊密に連携して、基本構想の諸施策の実現を目指します。